

# 文化財 せんだい



No. 128

令和2年(2020年)11月発行  
仙台市教育委員会文化財課

仙台市青葉区上杉一丁目5-12

上杉分庁舎 10階

〒980-0011 Tel:022-214-8893

仙台市文化財課

検索

## 令和2年度 発掘調査速報!!

きためじょうあと  
**北目城跡(太白区東郡山)**

主な発見：  
堀の中の「障子」(障壁)

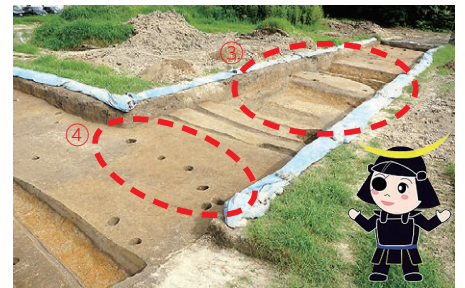
**北目城跡**は、JR長町駅の南東約1.5kmに位置する城跡で、関ヶ原の戦いの際に伊達政宗が在城していたことが知られています。これまでの調査では、堀跡、井戸跡、土坑などの遺構が確認されており、陶磁器、刀、木製品が出土しています。

今回の第10次調査は、令和2年5月から8月に実施されました。調査の結果、堀跡、溝跡、井戸跡、ピット、土坑などの遺構が確認されました。堀跡からは陶磁器などの遺物が出土し、井戸跡からは下駄などの木製品、溝跡からは石臼などの石製品や瓦などの遺物が出土しています。堀跡は幅約10m、深さ2mを超える大規模なもので、堀の底には、**敵の侵入を防ぐための「障子」と**推定される土手状の高まりが見られます。

この堀跡は、第10次調査区の東側で実施された第8次調査で確認された堀跡の延長部分と推定され、両方の調査区をあわせてみると、やや南側に屈折しながら東西方向に延びていく様子が認められました。他の溝跡にも、幅6~9m程度のものが認められ、堀跡に平行する方向に延びている様子が確認されました。



①堀跡と②障子 ※127号にも掲載



③溝跡 ④ピット(穴の部分)



⑤井戸の跡が並び

こおりやま いせき  
**郡山遺跡(太白区郡山)**

主な発見：  
「材木列跡」「掘立柱建物跡」

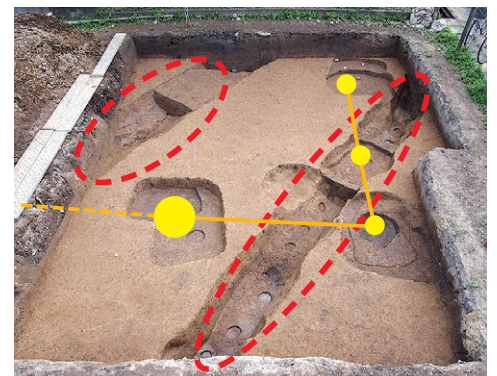
**郡山遺跡**は、これまでの調査で多賀城が造られる前の陸奥国府であったことがわかっており、I期官衙(7世紀半ば~)、II期官衙(7世紀後半)に分けられます。平成18年に国史跡に指定されています。史跡整備に向け、今年度はII期官衙中枢部の南東部(305次調査)とII期官衙南門跡の北側(306次調査)の2ヶ所で調査を行いました。

305次調査では、材木列跡と掘方(柱を立てるために掘った部分)の一辺が100~150cmもある方形の柱穴が見つかりました。材木列跡は材木が抜き取られており、その方向からII期官衙よりも古い役所であるI期官衙の時期のものと考えられます。

方形の柱穴は材木列跡より新しく、その配置から隣接する299次調査で見つかったII期官衙の掘立柱建物跡の続きと推定されます。今回の調査によって建物の東西の規模がわかりました。

306次調査では官衙に関わる遺構は見つからず、南門の北側は建物がない広場的な空間であったことが考えられます。

郡山遺跡については、建物の構造や性格に不明な点が多く、今後も史跡整備に向け引き続き調査を行い解明していく必要があります。



「材木列」…区画・防御のための堀跡  
●「建物の柱穴」と---つないだ線

キーワード：【官衙】

国の役所のこと。古代に天皇を中心とする国づくりが本格化する中、東北の地を治めるため郡山の地に役所が置かれた。

キーワード：【掘立柱建物】

礎石などを用いず、地面を掘ってそのまま柱を立てた建物。縄文時代から近世にかけて見られる構造。



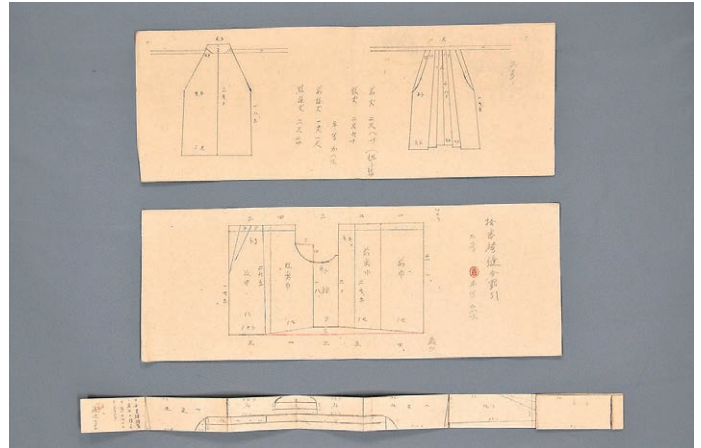
ほうざわがくえんさいほうがくしゅうしりょう  
「**朴沢学園裁縫学習資料**」が市の有形文化財に  
指定されました!



学校法人朴沢学園が所有している「**朴沢学園裁縫学習資料**」(3,956点)が、令和2年8月3日、**仙台市指定有形文化財**(歴史資料)に指定されました。



基礎的な縫い方を学習した資料(基礎縫)



衣服の構成と布の裁ち方を学習した資料(野引)

朴沢学園は、明治12年(1879)、仙台藩士の息子であった朴澤三代治が、良覚院丁一番地(現在の青葉区一番町二丁目)に開学した裁縫学校「松操私塾」を前身としています。

明治初期の日本では、小学校が義務教育となったものの、女子の就学者数が伸び悩んでいたため、その打開策として小学校に裁縫科が取り入れられます。この時代にあって同校は、裁縫教員として活躍する卒業生を県内のみならず全国に輩出し、渡辺学園(現 東京家政大学)と並ぶ裁縫教育の双壁として、全国に名を知られていきました。

本資料群は、明治から昭和中期にかけて在学していた生徒たちが、裁縫技法を学ぶ学習の過程で製作し、卒業後も大切に保管していたものです。のちに59名分が同校に寄贈され、約4,000点のコレクションとなりました。

仙台市教育委員会では、平成26年から29年度にかけての4年間、文化庁の指導の下で「朴沢学園裁縫教育資料史料調査事業」を展開し、このコレクションが、裁縫の基礎的な技法からこれを応用して衣服や装飾品等を製作するに至るまで、技術習得の過程を段階的に示しており、これにそって分類できることを明らかにしました。

キーワード：【有形文化財】

建造物、工芸品、彫刻、書籍、歴史資料など、形のあるもので歴史上、芸術上、学術上価値の高いもの。



ミニチュアサイズで製作した衣服(裁縫雛形)



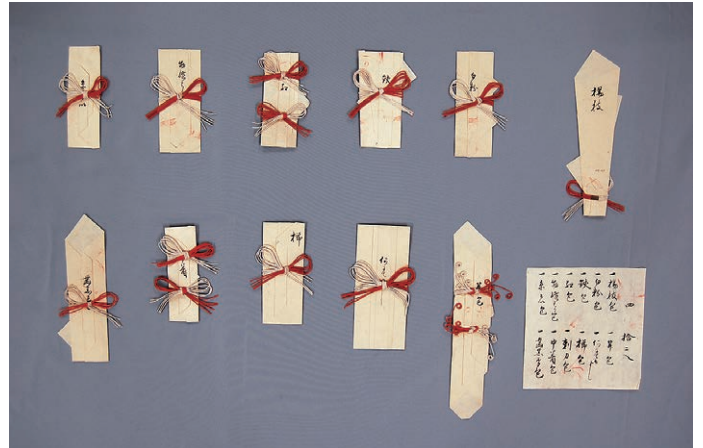
特に技術を要する部分に力点を置いて学習したことを示す資料(裁縫雛形・部分縫)



今回の文化財指定は、この調査成果を受けて、本資料群が近代日本の裁縫教育の実態を具体的かつ詳細に示すものとして、重要であることが認められたものです。本件を受けて、市指定有形文化財は全部で116件(うち歴史資料18件)になりました。



学習に用いた裁縫道具



裁縫のほか礼法を学んだことを示す資料(折方・水引)  
おりかた みずひき

## シリーズ ~仙台城跡特集~ 第2回

このコーナーでは、市民の皆様から大きな関心が寄せられている仙台城跡の調査結果等を、3回にわたって紹介します。



今回紹介する調査区域

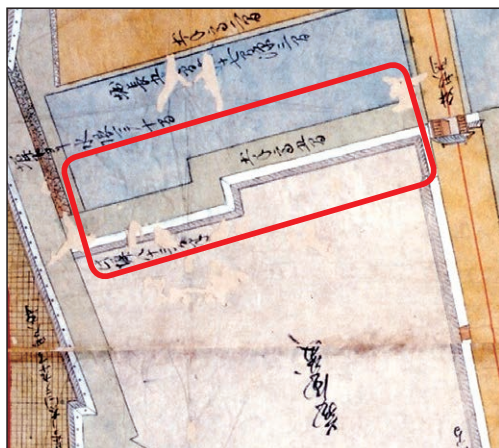
## 発掘調査速報 ~東丸(三の丸)土塁~

仙台城跡では、今年度の発掘調査でも大きな発見がありました。その一つが東丸(三の丸)土塁で確認した、塀跡と考えられる遺構です。寛文4年(1664)~天和2年(1682)の間に作成された下の絵図では、狭間(城の塀などに弓や鉄砲を用いるために開けてある穴のこと)の無い土塀が描かれていることから、調査箇所では塀跡の存在が想定されていました。

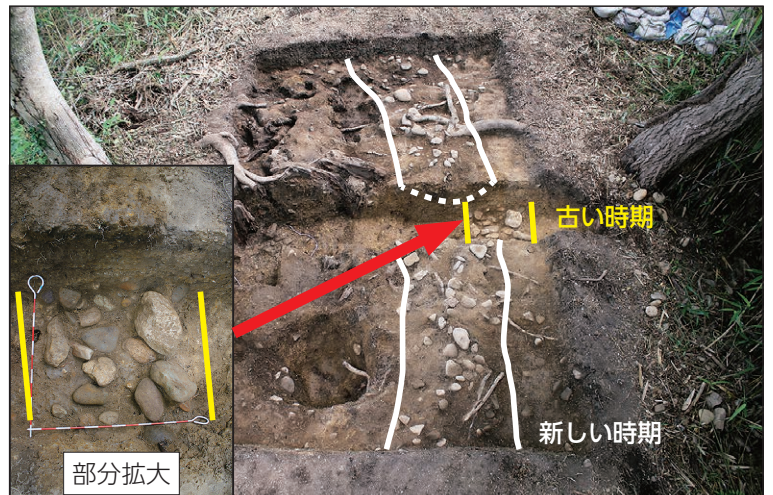
調査で、塀跡は2時期あったことが確認されました。新しい塀跡は、表土からすぐ下で検出され、基礎となる側石は失われた状態で見つかりました。さらにその下層では、古い塀跡を石列状に検出することができました。土層の堆積状況から、古い塀の廃絶後に土塁をさらに積み直して新しい塀が造られたと考えられます。



出土した塀瓦



「仙台城絵図」(個人蔵)  
の部分が土塀



土塁上面で検出した2時期の塀跡



# 第72回文化財展 「文化財この一年」

第73回文化財展は  
せんだいメディアテークで  
11月11日～15日 開催

令和2年6月9日から8月30日まで、東北電力グリーンプラザにおいて第72回文化財展「文化財この一年」を開催しました。

今回の文化財展では、多数の古代の<sup>たてあなじゆうきよあと</sup>竪穴住居跡が見つかった長町駅東遺跡や、<sup>くにしせきむつこくぶんじあと</sup>国史跡陸奥国分寺跡の江戸時代の<sup>しょうろう</sup>鐘楼の調査結果など、令和元年度の発掘調査の成果を中心に、7遺跡についてパネルや出土品を展示して紹介しました。また、仙台市内ではあまり残っていない明治初期の町屋で、新たに国の文化財に登録された<sup>とりやまべいこくてん ほんおもや</sup>「鳥山米穀店店舗兼主屋」については、明治時代の『<sup>のうごうしょうしよくいんろく</sup>宮城県農工商職員録』や、卸業の様子が分かる<sup>べいこくましやせきそうちよう</sup>「米穀汽車積送帳」、家づくりにも力を入れていたことが分かる屋号紋入りの鬼瓦などを展示し、多くの皆さんにご覧いただきました。



展示の様子



鳥山米穀店に関わる展示遺物など

## 歴ネットクイズラリー 開催中!!

現在、「歴ネットクイズラリー」を開催しています。  
仙台城見聞館、史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設など  
仙台市内の9つのミュージアム(見学場所)を訪れて、クイズに  
答えてスタンプを押していきます。4館、8館達成でそれぞれ  
特別なプレゼントを準備しています。

令和3年1月31日まで開催しています。9つのミュージアム  
を回って、あなたも「仙台通」になりませんか。

詳しくは SMMA (仙台・宮城ミュージアムアライアンス)  
ホームページ <https://www.smma.jp> で!



SMMA

検索

## 今後の文化財課関連イベント(予定)

・第34回民俗芸能のつどい(令和3年2月13日): 宮城野区文化センター パトナホール

・新型コロナウイルスの流行状況により、当課の事業、イベント等につきましては中止や延期となる可能性があります。最新の情報は当課ホームページやお電話等でご確認ください(表紙上部記載)。